

会 議 記 録

会 議 名	第五次和光市総合振興計画検討委員会 第3回会議
開 催 日 時	令和元年 11 月 18 日（月）午前 10 時 00 分～11 時 00 分
開 催 場 所	市役所 6 階 602 会議室
出 席 者	別紙のとおり
次 第	1 開会 2 報告 (1) 和光 100 年まちづくり会議 第 1 回・第 2 回の開催結果について (2) 第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）について (3) 第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）に関するパブリックコメントの実施について 3 議事 (1) 第五次和光市総合振興計画の個別施策に関する計調書の作成について 4 その他 5 閉会

1 開会

2 報告

(1) 和光 100 年まちづくり会議 第 1 回・第 2 回の開催結果について

事務局説明

それでは、和光 100 年まちづくり会議第 1 回・第 2 回の開催結果について、ご説明いたします。

資料 1 として事前に配布いたしました「和光 100 年まちづくり会議第 1 回・第 2 回の開催結果について」をご覧ください。

全 4 回のうち、2 回までが終了いたしました。概略を簡単にご報告いたします。

9 月 1 日の 1 回目は市民約 50 名の方にお集まりいただきました。また、職員プロジェクトチームからも 20 数名参加し、70 名近い規模で実施しました。

まず、前半は、アイスブレイクも兼ね、緊張されている市民の方にもリラックスした状態で自由にご意見をいただきたいということで、円形ダンボールというものをを用いて 5～6 人がダンボールを囲みながら、また、3 ラウンドを、グループを入れ替えながら対話を方法をとりました。

市制施行 50 周年を迎える年ですので、これから先 50 年で世の中や和光市がどうなっていくのかというテーマを設定し、意見をいただきました。

後半は、50年後のイメージを持ちながら、もう少し具体的に総合振興計画の期間でもある今後10年の間の課題や取り組むべきことについて市民感覚として意見をいただき、4つのテーマで意見交換を行いました。

アドバイザーとして早稲田大学の後藤先生に参加いただくとともに、市長も参加し、市民ワークと一緒に取り組みました。

10月6日には第2回があり、市民感覚で「市民がこのように暮らしている」という市民像や生活像を出してもらうことを意図しました。

その際、第1回のアドバイザーであった後藤先生が開発された「まちづくり人生ゲーム」というワークの和光市版を前半で実施しました。

内容は、この街で生まれてから死ぬまでの様々な人生経験の中で、どのような市民の悩みや課題があるのかを抽出し整理するものです。

また、後半はグループ別に、生活像や目標像につながるようなフレーズをグループで検討していただき、各グループ3つほど発表を行いました。

さらに、和光市が今後10年間で目指すまちの目標像をキーワードとして出していただきました。資料には写真も掲載しておりますので、雰囲気をご覧いただけましたらと思います。

4ページから7ページまでが第1回会議の前半で50年後の和光市を想像し、いろいろな意見を出していただいたものです。

例えば、近年は技術イノベーションが進んでいるので、いろいろな交通対策が考えられるのではないかとといった意見や、自然が50年後も残ってほしい、和光にはコミュニティが大事であるなど、幅広く未来のことについて考えた意見をいただきました。

8～9ページは第1回会議の後半についてです。後半は4つのコーナーをつくり、それぞれにテーマを設けました。参加者の方はそれぞれ自分の意見を出したいコーナーに行っていて、意見を出しました。

また、2～3個のテーマを渡り歩きたい方は、いくつものコーナーで意見を出していただけるようにしました。

テーマについては、テーマA「安心・安全」、テーマB「生きがい」、テーマC「子ども、子育て」、テーマD「にぎわい・活力」となっております。

10ページ目はアドバイザーとして出席された後藤先生と市長からの総括コメントになります。

テーマごとに和光市の場合こういった場合はこのように解釈したら良いのではないか、こういう対策が考えられるのではないかとといったようなアイデア、アドバイス、示唆をいただきました。

12ページ目からは第2回会議で実施したまちづくり人生ゲームの和光市版カードの中身です。

いろいろな人生ステージの中でそれぞれの悩みをどう選択していくかという作りで、この中に今和光市が抱えている課題、問題、テーマなどを設問や選択肢に織り交ぜております。

和光市で生活するそれぞれの方の人生を辿りながら、自分自身が和光市あるいは

自分として、どういうことが問題、課題なのか抽出して、次の議論に入ります。

17～19ページまではグループ議論の成果です。この時は6グループに分かれて、まちの課題を整理しました。

20ページ上半分では、グループからのまとめ発表内容として実現したい生活像が載っております。

20ページ下半分は将来都市像を作るためのアイデアの基となる意見です。将来都市像については、和光100年まちづくり会議におけるこれらの意見を元に、案を作成しております。

目標像の内容については、市民ワークショップを受けて、若手職員による職員プロジェクトチームで練り上げ、それをさらに事務局で精査し、作成しております。

次にご説明させていただく構想骨子（案）につきましては、ご報告させていただいた和光100年まちづくり会議における市民参加や若手職員によるプロジェクトチームによる職員参加を基礎としたものとさせていただいております。

【意見・質問】なし

(2) 第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）について

事務局説明

資料2をご覧ください。こちらは、先日の11月13日に開催された第五次和光市総合振興計画策定委員会第4回会議にて定まったものです。

構想骨子につきましては、将来都市像及び市民生活の目標像から構成されます。

1ページ目をご覧ください。将来都市像につきましては、こちらに記載されております「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」という案を示させていただいております。

2ページ目には、それぞれの言葉に込められた意味を示させていただいております。

まず、「みんなを」につきましては、第四次和光市総合振興計画における将来都市像「みんなでつくる 快適環境都市 わこう」の考え方を継承し、まちづくりの主体は市民をはじめとした「みんな」であることを示しています。

そのうえで、市内だけにとどまらず、他都市や世界とのつながりなども視野に入れ、積極的につなげていく意思を表明するために、「みんなで」や「みんなが」ではなく、「みんなを」という表現にしています。

次に、「つなぐ」につきましては、総合振興計画策定に向けて開催した和光100年まちづくり会議では、住み続けたいまちになっていくためには、人と人とのつながりが豊かであることが重要であるという意見が多く出されました。

若い世代の転出入が特徴の1つである和光市においては、人とのつながりが自然発生的に生まれるのを待つだけではなく、意識的につながりを作っていくことが求められます。

また、人のつながりだけではなく、道路や交通などを含めたインフラ面でのネットワークを強化していくことや、大切な自然環境や歴史資源などを次世代に引き継いでいくことも「つなぐ」という言葉に込めています。

次に、「ワクワク」につきましては、和光市に暮らす人にとっても訪れる人にとっても、「楽しい」と感じられたり「楽しいことがある」と思えたりできるようなワクワク感のあるまちを目指します。

ワクワクには「湧く」や「沸く」という漢字を当てはめることができ、活力や賑わいがあり、新しいことが次々と沸き立つような状態をイメージしています。

また、「湧く」という言葉の中には、和光市の大切な地域資源である「湧き水」を掛けており、和光市の特徴である自然資源を守っていく意思を示しています。

最後に、「ふるさと」につきましては、和光市は東京都心部に直結する立地でありながら、緑が豊かで潤いのあるまちであり、そうした都市と田舎の良さを兼ね備えた状態を維持していくことを「ふるさと」という言葉に込めています。

また、和光市に愛着やシビックプライドを持つことで、和光市を「ふるさと」と感じ、いつまでも住み続けたいと思える市民を増やしていきます。

続きまして、3ページ目をご覧ください。3ページ目には、将来都市像「みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光」を実現するため、和光市で生活する一人ひとりの市民生活をイメージした「市民生活の目標像」を設定しています。

こちらの目標像については、前回報告させていただいた内容と概ね同様ですが、近年の交通政策に関する重要性の高まりを踏まえて目標像2で交通関連の目標像を特出ししたことや、和光100年まちづくり会議におけるキーワードワークなどで出された意見などを反映した名称の変更を加えております。

4ページに記載させていただいた目標像に関する考え方については、前回の検討委員会でご説明したものと概ね同様ですので、説明は割愛させていただきます。

5ページ以降は、目標像ごとに、どのような姿を目指したいのか、主要な課題は何であるのかを整理したものとなっております。先ほどもお話しいたしましたが、この内容については、和光100年まちづくり会議等での市民の意見を踏まえ、職員プロジェクトチームにて検討したものを事務局で精査した内容となっております。

【意見・質問】

・基本構想骨子（案）について、基本構想骨子に至るまで様々な取組を行いながら作成されてきたと認識しました。その一方で、当部局としては子ども・子育て支援事業計画の改定を行っていきまして、その統合が今後図られると認識しています。

現在進行中の計画との統合については、最終的にどの段階で図られる予定なのでしょうか。

→ 子ども・子育て支援事業計画との整合性については、目標像4「子どもが自己肯定感を持ち、健やかに育つ」について、子ども・子育て支援事業計画における理念と整合性を図っています。

総合振興計画では、子どもに加えて高齢者等も対象に含まれていますので、両計画を完全に一致させることは難しいところではありますが、現段階の構想骨子におきましてはある程度、整合性は図ったものであると思います。

具体的な計画内容については、計画調書の作成依頼を行いますので、そちらにおいて反映していただきます。こちらで既に把握しているものについては、たたき台に反映させていただいております。

(3) 第五次総合振興計画基本構想 構想骨子（案）に関するパブリックコメントの実施について

事務局説明

それでは、第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）に関するパブリックコメントの実施について、ご説明いたします。

資料3「基本構想構想骨子（案）に関するパブリックコメントの実施について」をご覧ください。

まず、構想骨子（案）に関するパブリック・コメントの目的について、ご説明いたします。

本市で実施するパブリックコメントについては、最終的な計画案を対象に実施するケースが多くなっています。

総合振興計画については、市の最上位の計画であること、市民参加を充実させる観点から、その概要である「構想骨子（案）」の段階で一度パブリックコメントを実施し、その意見を反映したうえで、詳細な計画素案の策定を進めてまいります。

次に、パブリックコメント手続の概要についてです。この度の第五次総合振興計画基本構想 構想骨子（案）につきましては、パブリックコメントの意見提出期間を令和2年1月14日から2月2日の20日間を予定し、周知につきましては1月広報や市HP等を予定しています。

また、このパブリックコメントの実施に伴い、説明会を開催します。1回目は1月19日（日）に市役所の602会議室にて第4回和光100年まちづくり会議の後にを行います。2回目は1月20日（月）に坂下公民館の視聴覚室にて開催します。検討結果の公表については令和2年3月頃を予定しています。

その後、第五次和光市総合振興計画基本構想素案に関するパブリックコメントにつきましては令和2年6月頃に実施することを予定しています。

【意見・質問】なし

3 議事

(1) 計画調書の作成について（依頼）

委員長説明

第五次和光市総合振興計画の個別施策に関する計画調書の作成についてです。

それでは、資料4の「第五次和光市総合振興計画の個別施策に関する計画調書の作成について（依頼）」をご覧ください。

このような依頼を各課所に対して行うということによろしいか協議させていただければと思います。

先ほど事務局から説明があった資料2「第五次和光市総合振興計画基本構想 構想骨子（案）」に基づき、各課所等に個別施策に関する計画調書の作成・提出をお願いします。

各個別施設の計画調書作成主担当課につきましては、資料5の第五次和光市総合振興計画における目標像・個別施策と旧施策体系（第四次）との対応表のとおりと

なります。

1つの施策に複数の課が関連する場合は、計画調書作成担当課が、計画調書作成関係課と協議の上、1つの計画調書にとりまとめていただくことになります。

裏のページをご覧ください。参考資料といたしまして、これまでに計画策定に向けて作成した基礎調査資料などを共有フォルダに格納していますので、計画調書の作成にあたり、必要に応じて参考にしていただけるようにいたします。

今後の関連するスケジュールについては、年明けに検討委員会部会における計画調書の審議をお願いします。

その後、総合振興計画審議会部会にて計画調書の審議が行われます。この審議会部会への対応にあたりましては、検討委員会の各部会員の皆さまに説明員として同席していただきます。

依頼文書等につきましては、本会議終了後、速やかに掲示板でも掲示を予定しております。

事務の細部について不明点がありましたら、担当までご連絡ください。

【意見・質問】

・主担当課と関係課について、今回かなりコンパクトにまとまっているとお話をいただきました。趣旨については納得しています。

その中で、教育委員会について確認したところ、学校選択制について主担当課が教育総務課になっていますが、再協議が必要だと思います。

→ たたき台として提示させていただいたところで、まず一旦作成作業に取り組んでいただいたうえで、無理があるところは協議させていただきたいと思います。

ここに限らず、主担当課と関係課について、複数の分野にまたがっているところについては、基本的には市民生活の目標像からブレークダウンしていくような形で分野設定をさせていただいておりますのでこのような趣旨で一度まとめさせていただきます。

・今の話について、作成していく過程で何かあれば協議してよろしいという認識で大丈夫ですか。

→ 大丈夫です。

・主担当課と関係課が状況によっては入れ替わることも考えられますが、その場合は対応してくれるという認識で大丈夫ですか。

→ 大丈夫です。

4 その他

事務局説明

次回の総合振興計画検討委員会につきましては、1月にそれぞれ部会を開催することを予定しております。

その部会におきまして、作成した個別調書を部会で揉みながら審議をしていく流れで考えております。業務がお忙しい中、大変恐縮ですがご出席のほど、よろしくお願いいたします。

【意見・質問】

・将来都市像の「ワクワクふるさと」というキーワードについて、和光市が都市化している中で、「ふるさと」という概念が和光市にマッチするか気になりました。

和光市は都市化しており、和光市で定住している人、住み続けたいと思う人を増やしていきたいという中で、この「ふるさと」が言葉として合うのか気になります。

将来都市像は、どのような過程で決まっていくのでしょうか。

→ まず、「ふるさと」につきましては、まさに直結する形でふるさとというようなイメージのまちではありません。

しかし、ふるさとのようなところが残っているまちであるとか、または本市は転入出が多いことで、ふるさとを感じてもらえていない方が多いというところを変えていくというニュアンスで、「ふるさと」という言葉を入れさせていただきました。

将来都市像の決定の過程につきましては、基本的には骨子の段階では策定委員会で決定致しました。今後は審議会やパブリックコメントなどで進めていくことになります。

次に、ここまでの作成プロセスをお伝えしますと、まず和光100年まちづくり会議の第1回・第2回の結果を踏まえて10程度の案をコンサルタントで作成しました。

それを政策課で4つの案に絞り、その案に基づいて市長・副市長協議を行いました。その市長・副市長協議の中で、4つの案の中の1つが選ばれたわけではなく、4つの案の良いところを踏まえてまとめました。

その結果、事務局の案としてはまとまったという事で、審議会、策定委員会で審議をしていただきました。このようなプロセスで、将来都市像については進んでいます。

・部会の関係で、文教厚生部会の個別施策の「児童や青少年の居場所作り」等については、部会の①になると思いますが学童クラブに関する部分もありますが構成員はこのままで大丈夫ですか。

→ 部会については、目標像ごとに検討していくのではなく、計画調書を作成した担当課のくくりで部会を開催しようと考えています。

例えば、文教厚生部会で教育総務課や学校教育課がいるので部会①では学校教育や教育環境を実施するというような対応をする予定となっています。

わこうっこクラブと学童クラブについては、一体的運営の関係もありますので生涯学習課につきましては、部会②にも出席いただくことで調整させていただいております。

・生涯学習課については事前にお話をいただきましたので、部会②についても出席する予定です。保育施設課については部会①・②共に参加するという認識で大丈夫でしょうか。

→ 調整します。

委員長

今回、施策体系を大幅に変更致しましたので、このような課題はでてくると思います。そういったところも踏まえて、部会のメンバーについても調整させていただ

きたいと思います。

また、ご意見等もあると思いますので、個別に相談いただければと思います。

4 閉会